

VI 四万十市産業振興計画の目指す将来像と構成

産業振興計画の推進によって目指す将来像（10年後の成功イメージ）

地域資源を活かした産業の力みなぎる四万十市

この将来像（成功イメージ）には、「地産地消」（地元で購買する、地元企業・地元産品を使うこと）を促進し市内における経済の循環を大きくするとともに、本市が有する豊かな地域資源（山川海すべてそろった豊かな自然環境、豊かな農林水産物や加工品、食）、さらには歴史・文化などを育て、磨き上げ、組み合わせることで新たな付加価値を生み出し、「四万十」のブランド力を磨き、余すところなく発信し売出すことで、市外からお金を稼ぐ「地産外商」を推進し、競争力があがり持続可能な産業としての力みなぎる四万十市にしていきたいとの思いが込められています。

計画全体を貫く目標 ①

■10年後（令和6年度）の市内総生産額 1,150 億円以上を目指す

○各産業分野の取組の進捗と産業間連携による「地産地消」「地産外商」の推進により生産額を増加させ、令和6年度に市内総生産額 1,150 億円以上を目指す。

《参考：平成 28 年の市内総生産額 1,138 億 6000 万円》

戦略の加速化

- 計画推進体制と支援策の強化
- 国の地方創生事業の活用
- 県産業振興計画との連携と協働
- 「産・官・学・金・労・言」の連携
- 移住促進による活性化
- シニアプロモーションの推進
- SDGsの取組の促進を促進

計画全体を貫く目標 ②

■令和2年から令和6年までの人口の社会増減（転入数と転出数の差による増減）をプラスにする

○産業振興計画の推進により産業力を高め、若者が働ける場を増やす。

↳・若者の流出を抑制

・U/I ターンへの受け入れも可能

《参考：平成 27～30 年（年平均）の社会増減 社会減▲888 人》

商工業・観光をけん引役
に産業を骨太なものに
押し上げる！

“四万十”をまらごと発信・販売

～ “四万十” のブランド力を磨き、余すところなく発信し売出すことで、市外からお金を稼ぐ「地産外商」を推進～

産業間連携テーマ：「地産地消の促進」・「地産外商の促進」

～ 「地産地消」（地元で購買する、地元産品を使うこと）を促進するとともに、豊かな地域資源を組み合わせて新たな付加価値を生み出す～

農業分野

(目指す姿)	◆豊かな食を育み、地域で暮らしを豊かにする農業
(数値目標)	○認定農業者数
R6	【10 年後】 45 億円以上
H31	【5 年後】 43 億円以上
【直近値：H29】	43 億 1,000 万円
【直近値：H30】	139 人
【基準値：H26】	127 人

林業分野

(目指す姿)	◆山で若者が働く、全国トップクラスのヒノキ産地
(数値目標)	○原木生産量
【10 年後】	75,000 m ³ 以上
【5 年後】	60,000 m ³ 以上
【直近値：H29】	71,945 m ³
【基準値：H24】	47,000 m ³
(目指す姿)	◆木材・木製品製造品出荷額等
【10 年後】	9 億円以上
【5 年後】	8 億円以上
【直近値：H29】	8 億 496 万円
【基準値：H24】	7 億 5,000 万円

水産業分野

(目指す姿)	◆次世代いつながり資源回復と安定し魅力ある水産業
(数値目標)	○内水面漁業 漁獲量
【10 年後】	50 t 以上
【5 年後】	65 t 以上
【直近値：H29】	49 t
【基準値：H24】	56 t
(数値目標)	○海面漁業 漁獲量
【10 年後】	15 t 以上
【5 年後】	35 t 以上
【直近値：H29】	14 t
【基準値：H24】	30 t

商工業分野

(目指す姿)	◆顧客に選ばれる商工業と雇ひの創出
(数値目標)	○小売・卸売業 年間商品販売額
【10 年後】	750 億円以上
【5 年後】	800 億円以上
【直近値：H27】	690 億 7,100 万円
【基準値：H19】	798 億 1,000 万円
(数値目標)	○製造品出荷額等
【10 年後】	160 億円以上
【5 年後】	95 億円以上
【直近値：H29】	140 億 758 万円
【基準値：H24】	92 億 8,000 万円

観光分野

(目指す姿)	◆地域の誇りが人を誘う、おもてなしの“観光”地
(数値目標)	○観光入込客数
【10 年後】	130 万人以上
【5 年後】	130 万人以上
【直近値：H30】	118 万 466 人
【基準値：H25】	125 万 6,000 人
(数値目標)	○市内宿泊者数
【10 年後】	25 万人以上
【5 年後】	22 万人以上
【直近値：H30】	22 万 2,115 人
【基準値：H25】	21 万 1,000 人

基本戦略①

足腰を強め、地力を高める

基本戦略②

産業間の連携を強化する

基本戦略③

情報発信と外商の強化

基本戦略④

産業の担い手、人材の確保・育成

農業分野

産業振興計画の取り組み

現状	5年間（H27～H31）の取り組み	現状	R2	R3	R4	R5	R6	10年後の目標と目指す姿
戦略の柱 産地としての維持・強化	戦略のポイント ○地域に根ざした有望品目、戦略品目の産地形成 ○生産性の向上 ○安全・安心による選ばれる産地 ○組織的な農業経営 ○営農支援体制の整備	5年目の目標 農産物産出額 4.3億円以上を目標とす 認定農業者数 150人以上を目標とす	施策とアクションプラン 1 戦略品目の生産拡大 (1) ぶしゅかんの産地づくり (2) ゆずの産地化促進 (3) 栗の産地再生 (4) 有望品目の産地強化(トマト、キュウリ、ピーマンなどの有望品目の育成、新規作物導入の支援) 2 生産性の高い栽培技術の導入 (1) 学び教えあえる場づくり (高齢者から助言・指導が受けられる体制整備 ほか) (2) 環境保全型農業の推進 3 集落営農の推進 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援 (組織の広域連携化の推進 ほか) (2) こうち型集落営農の実践 (収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援) 4 生産・出荷支援システムの構築 (1) 農作業支援体制の充実 (集出荷拠点施設の認定・整備 ほか) (2) 集出荷支援体制の充実					10年後の目標と目指す姿 『豊かな食を育み、地域で暮らし移れる農業』 農産物産出額 4.0億円以上を目標とす 認定農業者数 150人以上を目標とす
地元農産物の利用・販促促進	戦略のポイント ○地元農産物の利用促進(市内消費の拡大、加工商品への利用促進) ○農産物の高付加価値化、ブランド化 ○販路開拓と販促促進	直近の実績値 平成29年農産物産出額 4.3億1,000円 平成29年認定農業者数 139人	施策とアクションプラン 1 地元農産物の利用促進 (1) 地元消費拡大に向けた取組みの強化 (公共施設での利用促進、市内量販店等を拠点とした販路拡大 ほか) (2) 直販機能の強化 2 ブランド化の確立と販促促進 (1) ブランド化の推進 (戦略品目(ぶしゅかかん、ゆず、栗など)のブランド化 ほか) (2) 地元農産物を使った商品の開発・販売(商品の開発、産業間連携による外販活動 ほか) 3 有機農業の推進 (1) 有機産物の販路開拓・拡大 (2) 有機農業の普及・啓発活動の推進					
担い手の確保・育成	戦略のポイント ○新規就農者への支援策を強化 ○意欲ある農業者を育成 ○継続リーダーを育成		施策とアクションプラン 1 新規就農者の確保・育成 (1) 新規就農者の研修支援(四万十農園あぐりっこ、「西土佐農業公社」、「先進農家」での実践研修) (2) 新規就農支援体制の拡充(相談支援体制の充実、経営安定や就農相談時の支援) (3) 移住促進による新規就農支援(移住就農者の誘致活動の強化 ほか) 2 認定農業者等の育成 (1) 認定農業者制度の周知強化 (2) 認定農業者等のフォローアップの強化 3 【用規】集落営農の推進					
農地の利用促進	戦略のポイント ○円滑な農地利用 ○担い手への農地集積 ○基礎整備による効果的な農業経営 ○耕作放棄地の再生と発生防止		施策とアクションプラン 1 農地の利用調整 (1) 農地利用の円滑化(農地中間管理機構の活用、農業委員会による農地の利用調整、人農地プランの実施化 ほか) (2) 基礎整備の推進(ほ場整備 ほか) 2 耕作放棄対策 (1) 耕作放棄地の再生及び発生防止対策(「中山間地等直接支払」、「多面的機能支払」の制度活用 ほか) (2) 適合品目の栽培促進(果樹等適合品目の産地化推進)					

林業分野

産業振興計画の取り組み

5年間(H27-H31)の取り組み

R2 R3 R4 R5 R6 10年後の目標と目指す姿

現状	5年間の目標	5年後の目標
<p>戦略の柱</p> <p>〇ヒノキ産地としての山の関心を高める(山林所有者、市民意識の醸成)</p> <p>〇目指すへき山の姿を描いた森林経営(長伐期施業推進と適切な皆伐、間伐)</p> <p>〇森林の集約化と施業の効率化、低コスト</p> <p>〇林業事業者の確保、育成に加え、兼業型林業事業者、自伐林家、集落組織等の多様な担い手の確保、育成</p> <p>〇「産地」を目指す(小規模であるが得意分野を活かした加工事業者の育成)</p> <p>〇木工製品の育成支援</p> <p>〇市産材製品ストック施設整備</p> <p>〇市産材製品ストック施設の整備など流通供給体制の強化</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 長期眺め視点に立った産地づくり <ol style="list-style-type: none"> ヒノキ産地としての意識の醸成 計画的な森林管理・経営の促進(データ管理の徹底) 提案型集約化施業の推進(森林経営計画策定の促進、森の工場の推進 ほか) 提案型集約化施業の推進 <ol style="list-style-type: none"> 長伐期施業の方針の策定と普及啓発 長伐期施業技術(ノフハワ)の蓄積と普及(市有林におけるモデル林の整備 ほか) 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践 <ol style="list-style-type: none"> 施業の効率化と低コスト化(作業道や林業機械導入への支援 ほか) 低コスト再造林、育林の検討 林業事業者や担い手の確保、育成 林業事業者及び林業技術者の育成支援 <ol style="list-style-type: none"> 林業事業者等の活動グループへのアプローチ(兼業型林業事業者の育成支援) 自伐林家及び集落組織等の育成 	<p>5年間の目標</p> <p>木材・木製品製造品出荷額等 8億円以上を目指す 原木生産量 75,000立方メートル以上を目指す</p> <p>10年後の目標</p> <p>木材・木製品製造品出荷額等 9億円以上を目指す 原木生産量 75,000立方メートル以上を目指す</p>
<p>供給体制の強化</p>	<p>1 加工事業者の生産力等の強化</p> <p>(1) 木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化</p> <p>(2) 木工製品の生産拡大・商品力の強化</p> <p>2 供給体制の効率化</p> <p>(1) 市産材製品ストック施設整備</p> <p>(2) 山行規制の促進による流通経路の削減</p> <p>(3) 木材流通ネットワークの構築(木材流通における事業者間の連携強化)</p>	<p>直近の実績値</p> <p>平成29年木材・木製品製造品出荷額等 8億406万円 平成29年原木生産量 71,945立方メートル</p>
<p>市産材の利用促進</p>	<p>1 市産材の利用促進</p> <p>(1) 公共建築等での市産材の率先利用</p> <p>(2) 木造住宅の建築促進(木造住宅建築支援への支援、コーディネート組織の設立)</p> <p>(3) 木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化</p> <p>2 木質バイオマス利用促進</p> <p>(1) 林地残材等の搬出の促進</p> <p>(2) 木質バイオマス利用設備の普及促進(木質バイオマスボイラー等の普及促進)</p> <p>(3) 四万七千ブランドの確立と販売力の強化</p> <p>(1) 四万七千ブランドの確立</p> <p>(2) 四万七千製品の生産拡大、商品力の強化(木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化)</p> <p>(3) 四万七千製品の販売力の強化</p>	<p>1 市産材の利用促進</p> <p>(1) 木造住宅の建築促進(木造住宅建築支援への支援、コーディネート組織の設立)</p> <p>(2) 市産材の利用促進及び情報発信の強化</p> <p>2 木質バイオマス利用促進</p> <p>(1) 林地残材等の搬出の促進</p> <p>(2) 木質バイオマス利用設備の普及促進(木質バイオマスボイラー等の普及促進)</p> <p>3 四万七千ブランドの確立</p> <p>(1) 四万七千ブランドの確立</p> <p>(2) 四万七千製品の生産拡大、商品力の強化(木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化)</p> <p>(3) 四万七千製品の販売力の強化</p>
<p>健全な産地づくり</p>	<p>1 人と鳥獣の良好・適正な環境づくり</p> <p>(1) 鳥獣被害対策(防護ネットの設置と捕獲の促進)</p> <p>(2) 捕獲の担い手確保、育成</p> <p>2 森のものの活用</p> <p>(1) 特用林産物の生産活動の支援とPR</p>	<p>1 人と鳥獣の良好・適正な環境づくり</p> <p>(1) 鳥獣被害対策(防護ネットの設置と捕獲の促進)</p> <p>(2) 捕獲の担い手確保、育成</p> <p>2 森のものの活用</p> <p>(1) 特用林産物の生産活動の支援とPR</p>

『山で若者が働く、全国トップクラスの「ヒノキ産地』』

木材・木製品製造品出荷額等 8億円以上を目指す
原木生産量 75,000立方メートル以上を目指す

施策とアクションプラン [Ver2]

- 長期眺め視点に立った産地づくり
 - ヒノキ産地としての意識の醸成
 - 計画的な森林管理・経営の促進(データ管理の徹底、提案型集約化施業の推進 ほか)
 - 提案型集約化施業の推進(未整備林の整備促進)
- 長伐期施業の推進
 - 長伐期施業の方針の啓発及び普及
 - 長伐期施業技術(ノフハワ)の蓄積と普及(市有林におけるモデル林の整備 ほか)
 - 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大
- 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践
 - 施業の効率化と低コスト化(作業道や林業機械導入への支援 ほか)
 - 低コスト再造林、育林の検討
 - 林業事業者や担い手の確保、育成
- 林業事業者及び林業技術者の育成支援
 - 林業事業者等の活動グループへのアプローチ(兼業型林業事業者の育成支援)
 - 自伐林家及び集落組織等の育成

- 加工事業者の生産力等の強化
- 木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化
- 供給体制の効率化
- 木材流通ネットワークの構築(木材流通における事業者間の連携強化)

- 市産材の利用促進
 - 公共建築等での市産材の率先利用
 - 木造住宅の建築促進(木造住宅建築支援への支援、コーディネート組織の設立)
 - 木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化
- 木質バイオマス利用促進
 - 林地残材等の搬出の促進
 - 木質バイオマス利用設備の普及促進(木質バイオマスボイラー等の普及促進)
 - 四万七千ブランドの確立と販売力の強化
- 四万七千ブランドの確立
 - 四万七千ブランドの確立
 - 四万七千製品の生産拡大、商品力の強化(木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化)
 - 四万七千製品の販売力の強化

- 人と鳥獣の良好・適正な環境づくり
 - 鳥獣被害対策(防護ネットの設置と捕獲の促進)
 - 捕獲の担い手確保、育成
- 森のものの活用
 - 特用林産物の生産活動の支援とPR

水産業分野

産業振興計画の取り組み

現状 5年間 (H27~H31) の取り組み 現状 R2 R3 R4 R5 R6 10年後の目標と目指す姿

現状		5年間 (H27~H31) の取り組み		10年後の目標と目指す姿	
<p>戦略の柱</p> <p>水産資源の回復・生産量UP</p>	<p>戦略のポイント</p> <p>○組織的な調査・研究と効果的な資源回復・維持</p> <p>○親苗漁業による安定的な供給</p> <p>○水産資源保護への意識の醸成と資源管理の実践</p> <p>○組織的な漁業経営</p> <p>○新規漁業者への環境づくり</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 天然水産資源の回復、増殖 <ol style="list-style-type: none"> 漁場環境、資源量等の調査・研究 (高知大学等)との連携事業 (ほか) 生育・漁場環境の保全・整備 (アジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備、イセエビ漁確保) (ほか) 親苗漁業の推進 <ol style="list-style-type: none"> 効果的な種苗放流の推進 (効果的な放流技術の確立、放流への支援) アオサの生産拡大 (新たな漁場の開拓、生産・品質管理の徹底 (ほか)) アジアオノリの栽培技術の研究と実践 (高知大学との連携事業 (実証試験) と実践) 地域に根ざした資源管理の仕組みづくり <ol style="list-style-type: none"> 漁場利用の新たなルールづくり (効果的な禁漁区、禁漁期の設定 (ほか)) 資源保護のための情報発信の強化 (漁業者、市民 (遊漁者含む) の資源保護意識の醸成) 担い手の確保・育成 <ol style="list-style-type: none"> 協業化の促進 (漁業協同組合、漁業者グループによる協業化の促進) 新規漁業者のための研修・フォローアップ (受入漁家による研修制度の充実 (ほか)) 	<p>5年目の目標</p> <p>内水面漁業漁獲量 65ト)以上を目指す</p> <p>海面漁業漁獲量 35ト)以上を目指す</p>	<p>施策とアクションプラン [Ver2]</p> <ol style="list-style-type: none"> 天然水産資源の回復、増殖 <ol style="list-style-type: none"> 漁場環境、資源量等の調査・研究 (自然アコ等の調査・研究 (ほか)) 生育・漁場環境の保全・整備 (アコの産卵場の再生・保全、イセエビ産卵器設置 (ほか)) 親苗漁業等の推進 <ol style="list-style-type: none"> 効果的な種苗放流の推進 (放流への支援・効果検証) アオサの生産拡大 (新たな漁場の開拓、生産・品質管理の徹底 (ほか)) アジアオノリの栽培技術の研究などへの支援 (実証試験結果を踏まえた栽培技術の向上 (ほか)) 地域に根ざした資源管理の仕組みづくり <ol style="list-style-type: none"> 漁場利用の新たなルールづくり (効果的な禁漁区、禁漁期の設定 (ほか)) 資源保護のための情報発信の強化 (漁業者、市民 (遊漁者含む) の資源保護意識の醸成) 担い手の確保・育成 <ol style="list-style-type: none"> 新規漁業者のための研修・フォローアップ (受入漁家による研修制度の充実 (ほか)) 	<p>『次世代くたくなく資源回復と安定した魅力ある水産業』</p> <p>内水面漁業漁獲量 60ト)以上を目指す</p> <p>海面漁業漁獲量 15ト)以上を目指す</p>
<p>戦略の柱</p> <p>水産物の加工・販売促進</p>	<p>戦略のポイント</p> <p>○四万十川ブランドの維持・強化</p> <p>○未利用資源 (雑魚など) を活かす</p> <p>○販売力の強化と販路拡大</p> <p>○魅力ある魚食文化の創造</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 水産物の高付加価値化の推進 <ol style="list-style-type: none"> 今ある商品の磨き上げ (品質管理の向上、商品力の強化) 新たな商品開発 (未利用資源等 (雑魚など) の掘起しと利活用、新たな商品の企画・開発の支援) 販売力の強化と販路拡大 <ol style="list-style-type: none"> 漁業協同組合の販売力の強化 (「あゆ市場」の販売力の強化 (ほか)) ブランド力の強化と販路拡大 (ブランドニングの構築と発信、産業界連携による外荷活動 (ほか)) 魚食文化の磨き上げと発信 <ol style="list-style-type: none"> 魚食文化の磨き上げ (周年で楽しめる魚食文化の創造 (ほか)) 魚食文化の発信強化 (グルメイベント等での魚食文化の発信) 	<p>直近の実績値</p> <p>平成29年内水面漁業漁獲量 46ト)</p> <p>平成29年海面漁業漁獲量 14ト)</p>	<p>10年後の目標と目指す姿</p> <p>内水面漁業漁獲量 80ト)以上を目指す</p> <p>海面漁業漁獲量 24ト)以上を目指す</p>	
<p>戦略の柱</p> <p>水産資源を活用した交流の拡大</p>	<p>戦略のポイント</p> <p>○川や魚への親しみと関心を高める</p> <p>○四万十川をより深く体験してもらおう</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 体験交流の推進 <ol style="list-style-type: none"> 魅力ある体験商品づくり (体験商品の磨き上げ、川の体験ガイドブックの作製) 体験教室等の開催 (体験カリキュラムの作成、漁協における受入体制の強化) 	<p>10年後の目標と目指す姿</p> <p>内水面漁業漁獲量 80ト)以上を目指す</p> <p>海面漁業漁獲量 24ト)以上を目指す</p>	<p>10年後の目標と目指す姿</p> <p>内水面漁業漁獲量 80ト)以上を目指す</p> <p>海面漁業漁獲量 24ト)以上を目指す</p>	

商工業分野

現状	5年間 (H27~H31) の取り組み	現状	10年後の目標と目指す姿
<p>戦略の柱</p> <p>顧客に選ばれる商工業の振興</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした商品開発 <ol style="list-style-type: none"> 今ある特産品等商品の磨き上げ (品質や味、ラベル等の磨き上げや表示の適正化 ほか) 魅力ある素材アイデアの掘起し (事業者間のマッチング ほか) 新たな特産品等の商品開発 (企画・開発支援 ほか) 商品の販路開拓・販売促進 (商談会等販路開拓への支援、産業間連携による販売促進活動 ほか) 商品開発・販路開拓の中核となる人材、組織の育成 (新食肉センター整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興 ほか) 四万十の“食”文化の磨き上げと発信 <ol style="list-style-type: none"> 四万十の“食”文化の磨き上げ (四万十の食文化の掘起し、磨き上げ、場だたきのブランド化、地産地消認証店制度 ほか) 地域を拠点とした食の発信 (食の発信イベント等の開催、一元対が情報発信の促進) 都市圏等を拠点とした食の発信 (県外事業者の拠点を活用した外荷推進 ほか) 地震防災対策における建設事業の推進 <ol style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保 	<p>施策とアクションプラン [Ver2]</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした商品開発 <ol style="list-style-type: none"> 今ある特産品等商品の磨き上げ (品質や味、ラベル等の磨き上げや表示の適正化 ほか) 魅力ある素材アイデアの掘起し (事業者間のマッチング ほか) 新たな特産品等の商品開発 (企画・開発支援 ほか) 商品の販路開拓・販売促進 (商談会等販路開拓への支援、産業間連携による販売促進活動 ほか) 商品開発・販路開拓の中核となる人材、組織の育成等 (新食肉センター整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興 ほか) 四万十の“食”文化の磨き上げと発信 <ol style="list-style-type: none"> 四万十の“食”文化の磨き上げ (四万十の食文化の掘起し、磨き上げ、場だたきのブランド化) 地域を拠点とした食の発信 (食の発信イベントの拡充等、一元対が情報発信の促進) 都市圏等を拠点とした食の発信 (県外事業者の拠点を活用した外荷推進 ほか) 地震防災対策における建設事業の推進 <ol style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保 	<p>『顧客に選ばれる商工業と賑わいの創出』</p> <p>小売・卸売業年間商品販売額 700億円以上を目標 製造品出荷総額 100億円以上を目標</p>
<p>戦略の柱</p> <p>顧客に選ばれる商工業の賑</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 中心市街地・商店街の魅力・賑わいづくり <ol style="list-style-type: none"> 回遊性と集客力向上のための拠点づくり (土曜銀行跡地活用による拠点整備、(仮称)西土佐道の駅の整備 ほか) 商店街の機能向上 (商店街活性化ワークショップ等の開催、核となる人材の確保、育成 ほか) 日常の賑わいにつながる仕組づくり (イベント等活性化の仕組づくり、個性が光る店舗の集積 ほか) 空き店舗対策 (空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供、改修等への支援) 創業や経営革新への支援強化 <ol style="list-style-type: none"> 経営指導などサポート体制の強化 (商工会、商工会議所等の経営指導スキルアップ研修 ほか) 創業や経営革新の意欲ある事業者 (人材) の育成、スキルアップ 	<p>直近の実績値</p> <p>平成27年小売・卸売業年間商品販売額 690億円、100億円 平成26年製造品出荷総額 140億円、100億円</p>	<p>小売・卸売業年間商品販売額 700億円以上を目標 製造品出荷総額 100億円以上を目標</p>
<p>戦略の柱</p> <p>中心市街地・商店街等の活性化</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 中心市街地・商店街の魅力・賑わいづくり <ol style="list-style-type: none"> 回遊性と集客力向上のための拠点づくり (土曜銀行跡地活用による拠点整備、(仮称)西土佐道の駅の整備 ほか) 商店街の機能向上 (商店街活性化ワークショップ等の開催、核となる人材の確保、育成 ほか) 日常の賑わいにつながる仕組づくり (イベント等活性化の仕組づくり、個性が光る店舗の集積 ほか) 空き店舗対策 (空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供、改修等への支援) 創業や経営革新への支援強化 <ol style="list-style-type: none"> 経営指導などサポート体制の強化 (商工会、商工会議所等の経営指導スキルアップ研修 ほか) 創業や経営革新の意欲ある事業者 (人材) の育成、スキルアップ 	<p>直近の実績値</p> <p>平成27年小売・卸売業年間商品販売額 690億円、100億円 平成26年製造品出荷総額 140億円、100億円</p>	<p>小売・卸売業年間商品販売額 700億円以上を目標 製造品出荷総額 100億円以上を目標</p>
<p>戦略の柱</p> <p>中山間地域の商業機能の確保</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 小ざな (田舎) ビジネスの推進 <ol style="list-style-type: none"> 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成拠点 (地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発 ほか) 地域の人、もの、コトの発信 ビジネスの拠点づくり (拠点ビジネスの推進 (地域における生産・加工・販売の仕組みや拠点づくり)、道の駅「よつて西土佐」の機能拡充、四万十を核とした西土佐地域の産業振興 ほか) 情報通信関連産業の誘致促進 <ol style="list-style-type: none"> 誘致に向けたリサーチ 誘致活動の推進 (特色ある誘致情報発信、支援メニューの創設・受入体制づくり ほか) 遊休施設等を活用したシェアオフィス等の整備 	<p>直近の実績値</p> <p>平成27年小売・卸売業年間商品販売額 690億円、100億円 平成26年製造品出荷総額 140億円、100億円</p>	<p>小売・卸売業年間商品販売額 700億円以上を目標 製造品出荷総額 100億円以上を目標</p>
<p>戦略の柱</p> <p>企業誘致</p>	<p>施策とアクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 小ざな (田舎) ビジネスの推進 <ol style="list-style-type: none"> 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成拠点 (地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発 ほか) 地域の人、もの、コトの発信 ビジネスの拠点づくり (拠点ビジネスの推進 (地域における生産・加工・販売の仕組みや拠点づくり)、道の駅「よつて西土佐」の機能拡充、四万十を核とした西土佐地域の産業振興 ほか) 情報通信関連産業の誘致促進 <ol style="list-style-type: none"> 誘致に向けたリサーチ 誘致活動の推進 (県と連動した誘致活動、支援メニューの創設・受入体制づくり) 遊休施設等を活用したシェアオフィス等の整備 	<p>直近の実績値</p> <p>平成27年小売・卸売業年間商品販売額 690億円、100億円 平成26年製造品出荷総額 140億円、100億円</p>	<p>小売・卸売業年間商品販売額 700億円以上を目標 製造品出荷総額 100億円以上を目標</p>

観光分野

<p>現状</p> <p>観光人口数 12万6,000人(H25)</p> <p>市内宿泊者数 2万1,000人(H25)</p>	<p>戦略の柱</p> <p>滞在型の観光地づくり</p>	<p>戦略のポイント</p> <p>○市場を意識した観光資源の発掘・磨き上げ</p> <p>○周年で滞在できる「滞在」地づくり</p> <p>○観光でつなぐ産業間連携と相乗効果</p> <p>○「食」の強みを観光に活かす</p> <p>○広域観光の推進</p>	<p>実施とアクションプラン</p> <p>1 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり</p> <p>(1) 観光リサーチの徹底（観光マーケティングリサーチ、四万十町のどこが好きキャンペーン）</p> <p>(2) 今ある観光商品の磨き上げ（専門家を活用した観光商品の磨き上げ ほか）</p> <p>(3) 新たな観光商品づくり（商品づくりワークショップ、地域の産業と連携した新たな観光商品づくり ほか）</p> <p>(4) 食の魅力を活かした観光振興（食の発信・普及イベント等の開催 ほか）</p> <p>2 広域連携による周遊観光の推進</p> <p>(1) 広域連携による周遊観光プランの造成・販売、販売、広域連携によるキャンペーンの展開</p>	<p>5年目の目標</p> <p>観光人口数 13万人以上を目指す</p> <p>市内宿泊者数 2.5万人以上を目指す</p> <p>直近の実績値</p> <p>平成30年観光人口数 118万、446人</p> <p>平成30年市内宿泊者数 2万3,156人</p>
<p>現状</p> <p>観光人口数 12万6,000人(H25)</p> <p>市内宿泊者数 2万1,000人(H25)</p>	<p>戦略の柱</p> <p>滞在型の観光地づくり</p>	<p>戦略のポイント</p> <p>○「待ちの顧客」から「動く顧客」へ</p> <p>○市場を明確にした効果的なセールス活動</p> <p>○観光と物産・食などの一元的な情報発信と販売</p>	<p>実施とアクションプラン</p> <p>1 観光商品のセールス及び情報発信の強化</p> <p>(1) 観光商品のセールス強化（営業力のある人材、組織の育成、商談会等への出席、海外への営業活動の促進 ほか）</p> <p>(2) 広報・プロモーションの強化（一元的な情報発信、産業間連携による誘客（PR）活動、しまんとリバー・エキュプロジェクトの実施、ターゲットに合わせたプロモーションの展開 ほか）</p>	<p>5年目の目標</p> <p>観光人口数 13万人以上を目指す</p> <p>市内宿泊者数 2.5万人以上を目指す</p> <p>直近の実績値</p> <p>平成30年観光人口数 118万、446人</p> <p>平成30年市内宿泊者数 2万3,156人</p>
	<p>戦略のポイント</p> <p>○観光の拠点づくり</p> <p>○周遊しやすい環境づくり</p> <p>○観光地としての意識を高める（市民のおもてなし意識の醸成）</p> <p>○満足度とリピートに繋がるサービス</p>	<p>実施とアクションプラン</p> <p>1 おもてなし環境の整備</p> <p>(1) 四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化（拠点施設の改修や設備等の拡充 ほか）</p> <p>(2) 二次交通の充実（周遊バス（Hバス、しまんとあしり号）、おもてなしタクシー等の充実 ほか）</p> <p>(3) 周遊しやすい環境の整備（観光案内看板、WiFi環境等）の整備促進</p> <p>2 おもてなしサービスの充実</p> <p>(1) 観光地としての市民意識の醸成と浸透（市民向けのおもてなしマニュアルの作成、配布 ほか）</p> <p>(2) リピーター確保に向けた取り組み（「玉姫様の通行手形」など特典の充実 ほか）</p>	<p>5年目の目標</p> <p>観光人口数 13万人以上を目指す</p> <p>市内宿泊者数 2.5万人以上を目指す</p> <p>直近の実績値</p> <p>平成30年観光人口数 118万、446人</p> <p>平成30年市内宿泊者数 2万3,156人</p>	<p>戦略の柱</p> <p>観光地としての意識を高める</p> <p>観光地としての意識を高める（市民のおもてなし意識の醸成）</p> <p>満足度とリピートに繋がるサービス</p>
	<p>戦略の柱</p> <p>観光地としての意識を高める</p> <p>観光地としての意識を高める（市民のおもてなし意識の醸成）</p> <p>満足度とリピートに繋がるサービス</p>	<p>実施とアクションプラン</p> <p>1 おもてなし環境の整備</p> <p>(1) 四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化（四万十ひろば（カフェ）のオートキャンプ場化 ほか）</p> <p>(2) 二次交通の充実（周遊バス（Hバス、しまんとあしり号）等の分析・検証 ほか）</p> <p>(3) 周遊しやすい環境の整備（観光窓口のファストサービス、観光案内看板・WiFi環境整備の促進 ほか）</p> <p>2 おもてなしサービスの充実</p> <p>(1) 観光地としての市民意識の醸成と浸透（地域への愛着や誇りを再認識できる仕組みづくり ほか）</p> <p>(2) リピーター確保に向けた取り組み（宿泊施設、商店街、飲食店が連携した特典の充実 ほか）</p>	<p>5年目の目標</p> <p>観光人口数 13万人以上を目指す</p> <p>市内宿泊者数 2.5万人以上を目指す</p> <p>直近の実績値</p> <p>平成30年観光人口数 118万、446人</p> <p>平成30年市内宿泊者数 2万3,156人</p>	<p>戦略の柱</p> <p>観光地としての意識を高める</p> <p>観光地としての意識を高める（市民のおもてなし意識の醸成）</p> <p>満足度とリピートに繋がるサービス</p>

「観光」には、本市の豊かな環境（山川海、景観、暮らしなど）を守り育みつつながら、人、経済が循環する観光地を目指すという思いが込められています。